

のぼりべつ

広報

4月5日(土)、7日月、市内の小
学校9校で入学式が行われ、453
名の新1年生が“ときどき”“わ
くわく”の1日を過ごしました。
表紙の写真は、幌別東小学校。

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

生きがいと
シルバー人材センター

1997 No. 559

5/1

「人間50年～」と敦盛（幸若舞の一つ）で歌われた人生も、いまや80年時代に突入しました。約20年後には、国民の4人に1人は65歳以上になると予想されています。

登別市においても、よりよい高齢化社会を築き上げていくことは大切なことです。

そのためには、行政と市民が一体となってまちづくりを行う必要があります。

「いつかは行く道、通る道」である老いを一人ひとりが真剣に考え、明るく安心して生きがいのある長寿社会をつくっていききたいものです。

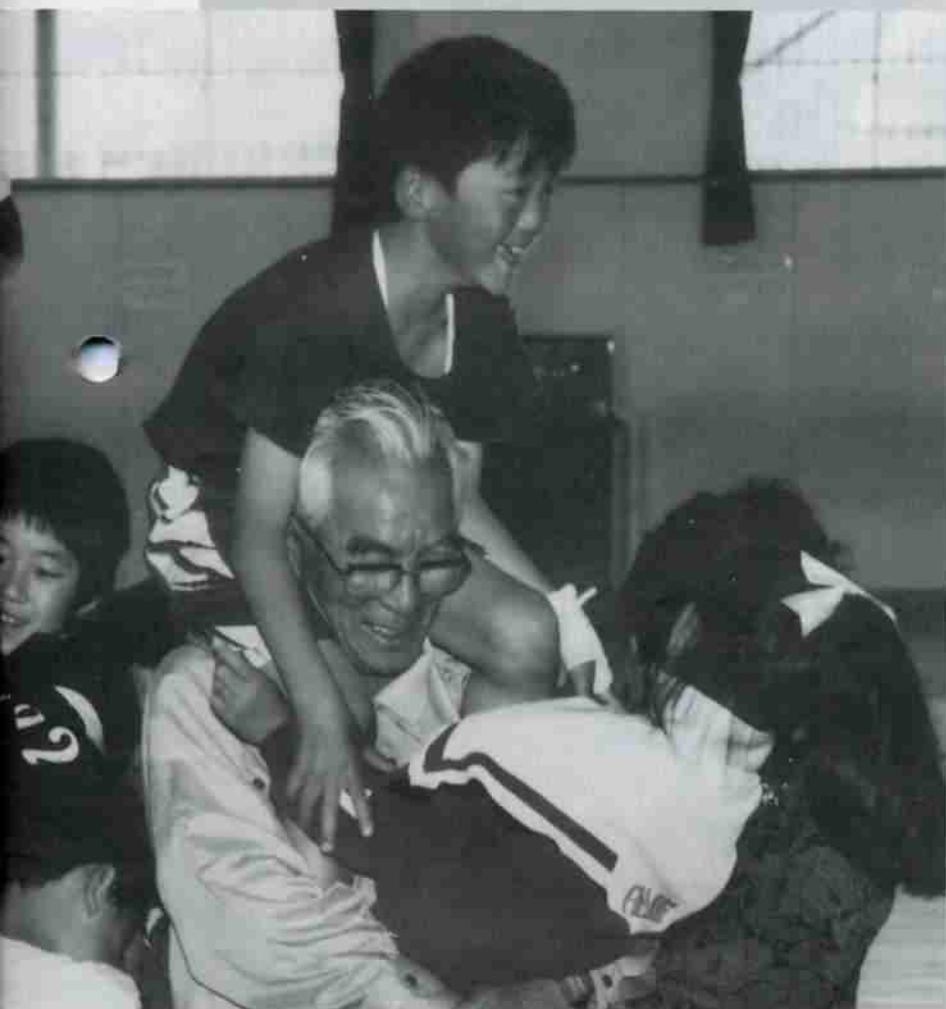
今号では、定年などを迎え、余暇を楽しみながら、仕事を持てるシルバー人材センターを紹介します。

登別市シルバー 人材センター

みなさんは、シルバー人材センターをご存じですか。

シルバー人材センターは、一般の方や企業から受けた臨時的・短期的な仕事を、おおむね60歳以上の会員の方に従事していただくための機関です。

会員には、登別市内に居住しおおよそ60歳以上で、健康な方なら、男女を問わずどなたでも入会できます。



生きがいと シルバー人材センター

入会の手続きは簡単で、シルバー人材センターに備え付けの入会申込書に必要事項を記入して提出するだけで会員になることができます。

また、報酬は、自分で働いた仕事量に応じた配分金が支払われ、仕事に従事している間の傷害は、団体傷害保険による補償が受けられます。

しかし、シルバー人材センター

は、職業()所ではありませんが、長期にわたる仕事や、社員待遇での仕事は、いっさい紹介しておりません。

シルバー人材センターは、発注者の方へ、高齢者の豊かな知識と経験、そして多才な技能を提供し、高齢者に社会参加の場を提供する組織で、人材派遣事業ではないのです。



発注者

(仕事を出す方)

企業
家庭
公共団体など



請負・委任

↑
臨時的・短期的仕事の受注
契約内容の履行

↓
仕事の発注・契約金の支払い

シルバー人材センター

(仕事の受注・契約)

仕事の提供・就業

↑
希望職種登録

↓
配分金の支払

会員

おおむね60歳以上の
健康で働く意欲のある方



シルバー人材センターは発注者のみなさんに高齢者の豊かな知識と経験、多才な技能を提供しています。



屋内外の一般作業

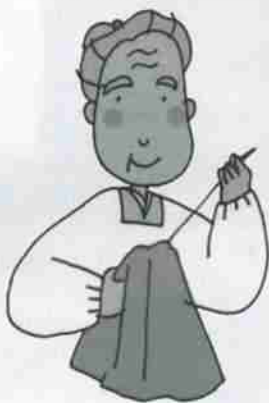
- 公園清掃
- 樹木消毒
- 除草・草刈り
- 包装



登別市シルバー
人材センターの会員は
どんな仕事をするの？

技 術

- 大工仕事
- ペンキ塗り
- 植木手入れ
- 和洋裁
- 補習教室講師
- ボイラー運転
- 経理事務など



事務・管理

- 受付事務
- あて名書き
- 毛筆筆耕
- 一般事務
- 伝票整理
- 事務所の受付・管理
- 駐車場管理
- 清掃
- 後片付け



サービス

- 家事手伝
- 留守番



会参加をしても

し、発注者の方
け合いより良い

センター
社センター内)

☎0882



シルバー人材センターの会員の
仕事の分野は多種多様です。
資格を要する専門的な仕事から
留守番まで発注者の要望に応じて
います。

登別市シルバー

人材センターって

どんなところ？

登別市シルバー人材センターは、労働福祉センター内（千歳町3丁目1-8）にあります。

現在の会員数は、平成9年3月末現在で507名（男性418名、女性89名）。最高年齢者84歳、平均年齢66・5歳の元気で明るい方ばかりです。

会員の方は、センターから連絡を受けて仕事をするほか、草刈りや木の雪づりの講習（無料）を受けたり、シルバー人材センター祭

りで隠し芸を披露したり、カラオケなどの趣味の会を持って、会員同士の交流も盛んに行っています。

これからの高齢化社会は、高齢者の方がより高齢の方を介助することが必要となると考えられます。

センターでは、女性会員数が少なく、介護や家事援助などの仕事の依頼に対応することができません。センターでは、男性の方はもちろん女性の方の加入をお待ちしています。



▲ 労働福祉センター



▲ シルバー祭り

喜ぶ顔が見たくて！

シルバー人材センターに入会して約6年になります。

今は、鉄南ふれあいセンターの管理業務にたずさわっています。

本当は、自分の趣味を生かして庭木の剪定をしたいのですが、以前に施設の管理をしたことがあったので、ここの管理をすることになりました。

お金を扱うので気を使いますが体を動かすことはほとんどなく、楽な方ですね。

新日鐵を定年退職したあと、夜警の仕事や看板店に勤めたりしていました。

暇なときは、野菜づくりでひとに野菜をあげたり、家々の庭の剪定をボランティアでやったりで、そうそう、去年から水彩画を書き始め、8枚ぐらい書いています。

今は、本当に充実した生活を送っていますよ。

人の喜ぶ顔が見たくて、いろんなことに挑戦しています。

シルバー人材センターは、心の交流ができますね。気の張りをもつこともできるね。

人間、孤独が一番いけません。シルバーでは、いい人間関係をもつことが大切です。

金をかせぐということより、人間関係で徳を積んだほうがこれからの幸せにつながりますよ。

シルバー人材センターでは、25人ほどの会員でカラオケ同好会をつくって、その会長になって月2回のカラオケを楽しんでいます。



美馬 徹さん（76歳・富士町）

シルバー人材センターは、高齢者の方に仕事や社らうだけの場所ではありません。

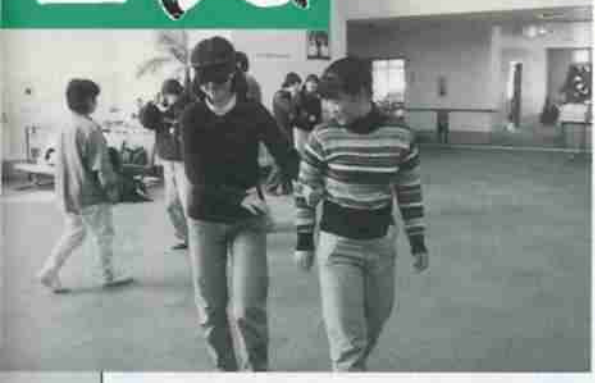
高齢者の方が生きがいを持って毎日を楽しく暮らが高齢者の方の知識や経験、技術を学び、互いに助高齢化社会を築き上げていく場なのです。



観 登別市シルバー人材

登別市千歳町3丁目1番地8（労働福

☎880880 FAX



私たちが時代をリードします

毎年、就職率100%を誇る日本工学院北海道専門学校で4月12日(土)入学式が行われました。今年の入学生は、新設のマルチメディア科など8学科で29名



田中孝行さん
(土木工学科)

(うち女子は15名)。

式典では、片柳 鴻理事長や来賓の祝辞を受けて入学生を代表し、電気工学科初の女子となった相良麻乃さん(恵庭南高校出身)が「多くの友人を得て、豊かな魅力ある人格形成に励みたい」とこれからの学生生活に向けての決意を述べていました。

今年の3月に地元の登別南高校を卒業し、土木工学科に入学した田中孝行さんは、「私は3人兄弟



で、兄2人ともここを卒業しました。兄たちは電気工学と電子工学でしたが、私は橋や道路を造る技術者になりたいです。学校へは家から通います。今日は入学できてうれしいです。」と話してくれました。

燃えろ！はばたけ！ボランティアの戦士たち

3月22日(土)、しんた21を会場に「ヤングボランティアフォーラム'97」が開催されました。

このフォーラムは、市内の高校生で実行委員会を作り「ボランティア活動の在り方について語り合おう」と初めて開催されたもので、大人の手ではなく企画から運営まですべて若者たちの手で行われました。

実行委員会の山口さんは「今日のフォーラムが、ボランティア活動を始めるひとつのきっかけにな

ってくれればうれしいですね。」とにこやかに話してくれました。

ボランティア実践発表や分科会での意見交換、「うまく動かないや」と悪戦苦闘しながらの車椅子体験、視力障害者の方を招いてのガイドヘルプ体験など、参加した中高生は、さまざまな体験を通してボランティア活動の意義を深めていました。

待望の耳鼻咽喉科がオープン

4月15日(火)、とんけし耳鼻咽喉科クリニック(富岸町2丁目2-3)がオープンしました。

「耳鼻咽喉科診療所」は、長年にわたり市民のみなさんから設置を強く要望されていましたが、待望のオープンを迎えたこの日、同クリニックの松田史明先生にお話を聞きました。

「以前から、地域に根ざした医療に携わりたいと考えていました。これからは、常に患者さんと同じ目の高さで、登別に来てくれてよかったと思われたい医師でありたいですね」と地域医療の一翼を担う

とんけし耳鼻咽喉科クリニック(富岸町2-2-3)



決意を新たにしていました。

▼診療時間

◎月・火・木・金曜日

(午前の部) 9時～12時30分
(午後の部) 13時30分～18時

◎水・土曜日

(午前の部のみ) 9時～13時

▼問い合わせ

とんけし耳鼻咽喉科クリニック

(☎)33387

3月22日(土)、自然愛好グループ・ヨシキリの会と胆振支庁の共催で、登別川上流の中登別町の山林を会場に、市民約40人がカンジキをはいて雪の野山を楽しみました。



カンジキは、雪の中に足を踏み込まないよう木を輪にしたもので、この日使用したカンジキは、黒松内町のカンジキ作り名人、渋谷吉尾さん(86歳)が作ったもの。

参加者は、周りの風景を絵にしてみんなで観賞し合う「森の美術館」を開いたり、動物たちの足跡を探したりで、柔らかな太陽の光を浴びて、春の雪解けを実感し

『鹿やうさぎの足跡、見つけたよ』

ていました。
この日、参加した幌別西小学校6年の尾谷真吾くんは、「長靴の中に雪が入ってちよつと歩くのに苦労したけど、動物のふんとか足跡を発見できたし、木にも登れておもしろかった。」と話してくれました。



尾谷真吾くん
(幌別西小6年)

学習意欲、孫たちには負けられません

4月23日(水)、市民会館大ホールで平成9年度老人大学・大学院入と誓いを新たにしています。学式(教育委員会主催)が開かれ、115人の新しい学生が誕生しました。この老人大学は、高齢者相互の親睦と知識や教養を身につけることを目的とした四年制で、大学院は、老人大学卒業後、さらに専門性をもたせた学習の場として二年制となっています。

この日は、新入生を代表として村井辰郎さん(69歳)が「仲間との交流を深め、老人大学で学んだ



成果を地域のために役立てたい。」と誓いを新たにしています。

最高齢の伊藤イトさん(85歳)は、「自分にプラスになるよう、いろんな話を聞きたくて入学しました。貴重な一日、一日をこれから大切にしていきたいです。」と話してくれました。



伊藤イトさん
(登別本町)

若草・新生地区のみなさん

お待たせいたしました

「住民票をとりにいこうと思いましたが、市役所は遠いし、鶯別支所に歩いて行くにはちよつと距離があるんだよね。」若草町に支所を設置することはできないので「近くなって本場に便利になった」ことでした。

若草・新生地区の方から、こんな要望が、かねてから市役所に寄せられていました。
市は、こういった要望に応えるため、今年4月1日、若草つどいセンター内に鶯別支所若草分室を設置し、同日から住民票や印鑑証明書、戸籍謄抄本の交付、年金現

況届の証明を開始しました。開設してから1カ月が経ちましたが、なかなか評判も良く、利用した市民の方に聞いてみたところ「近くなって本場に便利になった」ことでした。
今後市は、市民のみなさんともにより良いまちづくりを進めていきますので、みなさんの声をお聞かせください。
▼まちづくりについてのご意見、ご要望は企画広報室(☎851122 FAX851108)



年を取るつて素敵なこと

登別市のデイ・サービス



「高齢化社会の到来」「高齢者への福祉対策」という言葉を聞くことが多くなりました。

高齢者への福祉とは、お年寄りが住み慣れた地域や家庭で充実した生活を送り、毎日楽しく過ごせるような社会を築くことにあり、登別市では、在宅福祉サービスや施設福祉サービス、保健サービス、医療サービスなどの充実に努めています。

在宅福祉サービスでは、しんた21を拠点としてデイ・サービスや給食サービスなどを行っています。また、「デイ・サービス」という言葉をみなさんはご存じでしょうか。

デイ・サービスとは、自宅での歩行や入浴など、日常生活に困難な方で主に65歳以上の寝たきりや体の弱いお年寄りを対象に、入浴や食事、レクリエーションを主として1日お世話をするものです。

機械的な介護ではなく、人の優しさや心のふれあいを大切に、心と体の両方を介護する、それがデイ・サービスなのです。

デイ・サービスを実際に利用しているお年寄りにお話を聞いたところ、

「デイ・サービスを利用する日が楽しみ」「生活に張りがでた」「風呂が楽しみだ」「ご飯もおいしい」と好評でした。

「登別市でのデイ・サービスは3年をすぎたところです。市内には、しんた21のほかに、同じような事業を行っているグリーンコート三愛があります。今後、恵愛病院でも事業の開始が予定されていると聞いています。サービスを受けたいお年寄りはまだいると思いますので、これからもっと高齢者への福祉が充実するといいですね。」と語る丸山隆宏さん。



丸山隆宏さん (28歳)

しんた21内のデイ・サービスセンターで生活指導員として利用者の介助を行っている丸山さんは、登別市の福祉を真剣に考えている一人です。「建築の勉強をして本格的な福祉住宅の設計に携わったり、理学療法士の資格を取り訪問入浴など本格的な訪問看護をして、住みやすい老後の手助けをしていきたい。」と丸山さんは夢を語ります。

お年寄りの笑顔と若者の夢が、築いていく高齢化社会。

登別市の高齢化社会は、これからです。

広報ビデオ

「登別市のデイ・サービス
～やさしさよるこび～」

市は、このデイ・サービスをより多くの市民の方に知ってもらおうと広報ビデオ「登別市のデイ・サービス」ややさしさよるこび」を制作しました。

ビデオは、約9分もので、実際にデイ・サービスを利用しているお年寄りの方の姿を通し、デイ・サービスをわかりやすく紹介したものです。ご希望の方にはテープを無料で貸し出しますので、企画広報室(☎1122)までご連絡ください。

また、デイ・サービスについての申し込みや問い合わせは保健福祉課(しんた21内☎0100)または、総合在宅ケアセンター(しんた21内☎2221)までご連絡ください。



愛称は「サンバル」

新運動公園の名称が決まりました

野球場の完成も間近です

市内幸町にある日の出野球場が新しいごみ処理施設の建設に伴い廃止されることから、その代替地として、また、市民が健康づくりや体力づくりなどができる生涯スポーツの拠点として千歳町に建設中の新しい運動公園の名称が決まりました。

新運動公園の名称に決まったのは、全国から集まった581件の応募の中から、市内中央町7丁目の宮武紳一さん（71歳）の作品で、「岡志別の森運動公園」。

「岡志別」の名称は、アイヌ語の「オ・カシ・ウン・ベツ」（魚捕り小屋のある川）からきたもので、この付近では縄文時代の遺跡も発見されており、また、アイヌのコタンがあったところで、多くのアイヌ伝説が残っており、歴史的、文化的遺産を永く伝えるため、選ばれたものです。

新運動公園の愛称として、地元町内会やスポーツ団体、青年会議所など14団体、15人で構成された選考委員会では、宮城県伊藤悦子さん（47歳）と秋田県の森川クミ子さん（50歳）の作品で太陽の「SUN」と友達や仲間を表わした「PAL」を組み合わせた「サンバル」が選ば

れました。

「サンバル野球場」は、5月中ごろから使えます

同公園は、広さ約7ヘクタールで、平成8年度と平成9年度の2カ年で約4億3千万円の工費で建設されているもので、公園内には、野球場（両翼100m、センター120m）やテニスコート（6面のうち2面に照明設備）、パークゴルフ場（18ホール）、ジョギングコース（1,000m）などを建設します。

このほど野球場と管理棟の整備を

おおむね終え、グラウンドの整地を終えると、5月中ごろから使用できる予定です。

オープン記念は7月に

オープンを記念する初の大会「第17回全日本学童軟式野球大会北海道大会（28チーム参加）」が7月24日から28日の予定で開催されます。パークゴルフ場やテニスコートを含めた全体の完成は、来年3月をめどに整備が進められています。

▼問い合わせ 社会教育課

（☎1100）



▲完成間近のサンバル野球場

▼第16回全日本学童軟式野球大会北海道大会



いきいき

ボランティア

『家族ぐるみでボランティア』

「かゆいところに手が届く」そんな介護を続けていきたいですね」と語るのは、富士町の田中稚子さん。もともと、ボランティアグループの一員として、しんた21でデイサービスに携わっていた田中さんは、2年前、社会福祉協議会に紹介されたのをきっかけに、個人ボランティアの活動を始めました。

現在、田中さんは週2回、近所で車椅子の生活を送っている藤田さんご夫妻の入浴の介助や買い物、洗濯などの家事援助をしています。

田中さんの活動には家族の理解もあり、息子さんが藤田さんの将棋相手になったり、家族で藤田さんご夫妻と一緒にドライブに行くこともあ



るそうです。

「深い付き合いになると、相手何を望んでいるかが言われなくてもわかるようになるんですよ」と田中さんは個人ボランティアの良さを実感しています。

「いつまでも友だちのような感覚で長いお付き合いをしていきたいですね」と田中さんは、すでに生活の一部となっているボランティア活動を楽しんでいきます。

▼問い合わせ 登別市社会福祉協議会ボランティアセンター
(☎0860)



平成9年4月1日付けで、市は行政改革の一環として、部の室や課などの組織機構の見直しを行いました。

組織機構の見直しは、時代に即したみなさんの要望に的確に因應するために行ったもので、今後、シリーズで紹介していきます。

リサイクル推進室

(清掃工場内)

リサイクル推進室は、ごみの減量や分別収集などに取り組んでいた環境衛生課



▼冷蔵庫のフロンガス抜き取り

クローズアップ

減量対策係がリサイクル推進室リサイクル推進係となったものです。現在、市は平成12年の稼働に向け、新ごみ処理施設建設事業を進めています。いまの清掃工場は、老朽化が著しく、また、ごみの量が増える一方で処理能力が限界にきています。

さらに、千歳最終処分場は、大型ごみなどの燃やせないごみを埋め立てていますが、この処分場は、平成11年度で満杯となる予定です。

このため、市は地球環境を守り、限りある資源の有効利用に配慮した廃棄物の処理を基本として、新しいごみ処理施設と最終処分場の建設を進めています。

これからのごみ処理は、ごみの減量・減容化やリサイクルを高めていく方法に変わっていきます。

環境保護や資源の有効利用は、みなさんの意識とご協力がなければ解決しません。

リサイクル推進室は、登別のごみについて真剣に考えるみなさんの窓口となり、いっしょにリサイクルやごみ問題に取り組んでいきます。

▼リサイクル推進室
(☎2958)

(☎2958)

仲間たち

幌別剣道スポーツ少年団

代表指導者 大橋 忠雄さん

(☎0522229)

剣道を通じて体力づくりと仲間づくり

幌別剣道スポーツ少年団は、市内に剣道少年団が三つあるうちのひとつで、結成されてから27年たつ歴史のある少年団です。現在の会員は、小学生14名、中学生は5名で、指導している先生は5名。

今年、3人の小学生が入会しました。以前は、子どもたちもたくさんいて練習も盛況だったということですが、ここ数年は、20名前後で推移しているということです。

練習場所は、市立図書館横の青少年会館で、毎週火曜日と土曜日の午後6時から8時まで練習しています。

少年団の誓いは、「①勉強しよう②剣道しよう③よい行いをします」で勉強とスポーツの両立と正しい行動を目指そうというものです。

幌別剣道スポーツ少年団と同一組織で剣道道場「登別錬真館」の館長、大橋忠雄さん(78歳)は、「剣道がおもしろくなるまで、時間がかかるので途中でやめてしまう子がいいますが、少し辛抱して練習を続けると上達します。毎年、いろんな大会に出場して上位に入賞していますよ。人数がもつともっと増えるといいのですが。」と話していました。

入会希望の方は、大橋さんまでどうぞ。



からぎ



登別生粋の

『わさび漬』

〜藤崎わさび園

(登別温泉町)

本わさびの栽培は、清水の流れるところで、直射日光を3、4時間までとし、苗から収穫まで2年半かかるという大変手間のかかるもの。

「わさびを栽培できるということは、それだけ登別の水がきれいな証拠ですよ。」と話す藤崎さんは3代目。大正6年に医者だった祖父が漢方薬として栽培を始め、以来変わらぬ製法で道内、道外にも多くのファンをもつわさび漬。

「もつともつと全国的に有名ななるのが目標ですが、あくまでも登別に根付いた企業としての話。登別を離れてしまつては、藤崎のわさび漬はわさび漬ではありません。」と話す藤崎さん。

わさび漬のうまさの秘密は、親子代々の愛郷心が隠し味です。

藤崎のわさび漬は、藤崎わさび園のほか、登別温泉街の各ホテルや観光土産店以外では販売しておりませんので、購入希望の方は登別温泉へお越しください。

▼問い合わせ 藤崎わさび園(登別温泉町49番地 ☎2017)

「登別とともに80年。製法も職人の心もこだわりも受け継いできた味。それが藤崎のわさび漬です。」と藤崎社長は語ります。

藤崎わさび園のわさび漬は、すべて本わさびを使用し添加物を一切使わない健康食品。

1st position



岩田日登美さん

(登別町在住)
株大和電機北海道勤務

株大和電機北海道に勤務して、もうすぐ4年の岩田さん。

入社してすぐ製造課に配属され、電子機器基板のはんだ付けや検査を行うのが岩田さんの仕事。細かい作業だけに、目や肩、腰の疲れがひどく、帰宅してからお母さんに肩をもんでもらうこともあるそうです。

「もの」を作り上げるのが好きという岩田さんのモットーは、仕事は迅速かつ丁寧。以前、家の電気炊飯器が壊れ、コンピューター基板を取り出してみたところ、あまりの雑さにあきれてしまったそうです。

集中力を必要とし、神経を使う仕事ですが、つらいと思ったことはないという岩田さん。自分の作った基板が、どんな製品になってどんな人に使われるのかを考えると、一枚一枚の基板製作も気は抜けないと話してくれた岩田さんの目にはプロの厳しさが光っていました。

きらり

北海道スキー学校の集いのエキシビジョン部門で優勝した6人のチームリーダー

矢野のてるよし
輝佳さん（登別サンライバスキー）
スクール教師

3月23日(日)に行われた「北海道スキー学校の集いのエキシビジョン部門」で見事優勝した登別サンライバスキースクール（奥山忠雄校長）のエキシビジョン部門（公開演技でスキー技術やショー的技術を競うもの）のチームリーダー、矢野輝佳さんにお話しを聞きました。

◆札幌国際やニセコアルペンのスキー学校の強豪を抑えての優勝でしたが、エキシビジョンに出場したきっかけは。

「この大会は、男女ジャイアントスラローム（大回転）、エキシビジョン、自由演技の3種目があり、うちのチームは、毎年それぞれの種目に出ているのですが、なかなか上位には入れず、そこで今年は、登別のPRも兼ねて『登別温泉地獄まつり冬の陣―鬼六人衆』をテーマに趣向をこらして滑った結果が思いもかけず、優勝となったんです。」

◆準備が大変だったのでは。

「観光協会の協力をいただいて、鬼の面やら袴や法被を準備しました。いつものスキーウェアと違い、滑る勝手が違いましたね。」

◆出場したときの感想をお聞かせください

「登別地獄まつりの音頭に合

せて、傾斜角度24度のところを手踊りしながら、V字になっての滑降は大変でした。途中ころんだメンパーもいましたが、全体的にはうまくできたのではないのでしょうか。前日の夜の懇談会から鬼の面をかぶって登別に来てくださいとPRしましたし、今回は、地域の特色も出せたと思います。」

来年は、何にしたらよいか思案中だという矢野さん。「これからもスキーを接点に、登別のPRをずっとしていきます」と話していました。

これからも登別のPR大使として活躍ください。



遊遊 自適

第2の人生に生きがいをも!

私はシルバーの宣伝マン

「多くの人と知り合い、お互いの人生経験を語り合いながら仕事ができる楽しさがあるんですよ。第一線を離れてもなお、働くことに生きがいを感じている。そんな第2の人生を送っている齊藤さんご夫妻。」



齊藤広雄さん（74歳）
絹子さん（68歳） 羊園町

ことが仕事を長続きできる秘訣だとか。

土いじりをするのは健康につながると思う。広雄さんは、5年前に車の免許を取り、取得後3日目にして旭川や、故郷の富良野へドライブに行ったほどチャレンジ精神が旺盛です。

絹子さんはシルバー人材センターの理事として活躍しており、齊藤さん宅が連絡所となって、センターへの問い合わせ、仕事の取り次ぎなどを扱う「シルバーの宣伝マン」も引き受けています。

「家に閉じこもっているより、仕事をして何かの役に立てればと思いますし、お互いに譲り合いの気持ちで仕事をすれば、もめごとは起きないんですよ。」常に前向きな姿勢で仕事に取り組み、やさしい笑顔を絶やさない齊藤さんご夫妻。働く喜びを心から感じている2人の第2の人生は輝いています。

庭の草取りや家の掃除、植木の剪定などがおもしろい仕事ですが、2人のまじめな働きぶりは発注者にも大変好評で、ご指名で仕事に来ることもあるそうです。「来年もまた来てください」とよく言われるんですよ」と絹子さん。仕事先で温かく迎えられるおんとの楽しい交流をもてる

情報 あらかると

文化・スポーツ振興財団 からのお知らせ

◎初心者ソフトテニス教室

参加者募集

▼月日 6月3日(火)から7月4日

(金)までの毎週火・金曜日(計10回)

▼時間 10時~12時

▼場所 市営テニスコート(市民プール横)

▼対象 市内に居住または通勤する男女(高齢者の方大歓迎)

▼受講料 400円(傷害保険料)

※5月25日(日)までに総合体育館へ持参ください。

▼持参するもの テニスラケット、運動靴、運動のしやすい服装

▼申し込み・問い合わせ 5月25日(日)までに電話で総合体育館

(☎55552)

◎マスターズ水泳教室参加者募集

▼月日 6月5日(木)から7月5日

(土)までの毎週木・土曜日(計10回)

▼時間 18時~19時30分

▼場所 市民プール

▼対象 市内に居住または通勤する18歳以上の男女で初心者の方

▼募集人員 50名(申込順)

※ただし、次の①~③に該当する方は応募できません。

①禁治産者および準禁治産者

②禁固以上の刑に処せられ、その執行を終えるまで、またはその執行を受けることがなくなるまでの方

③選挙権および被選挙権を停止されている方

▼募集人員 2名

▼申し込み 市に備え付けの「審議会等委員申込書」に必要事項を記入のうえ、情報公開等についての意見、考え方や感じていることを800字程度にまとめ、5月20日(火)までに総務課へ提出してください

▼問い合わせ 総務課 (☎1130)

郷土探索「市民ハイキング」参加者募集

小鳥のさえずりを聞きながら、富岸地区を探索してみませんか。

登録レクリエーション協会は、自分たちの住むまちの良さを知る郷土探索ハイキングを開催します。

▼月日 5月11日(日) 小雨決行

▼時間 受付8時30分、出発9時

▼集合場所 富岸青少年会館(富

▼受講料 400円(傷害保険料)

※5月25日(日)までに(月曜日を除く)市民プールへ持参ください。

▼持参するもの 水着、プールキヤップ、バスタオル

▼申し込み・問い合わせ 5月9日(金)から5月25日(日)までの(月曜日を除く)13時から17時に電話で市民プール(☎55588)

▼まちをきれいに! 春の登別クリーン作戦

市内を清潔で、快適な美しいまちにするため、町内のゴミを一掃しましょう。

▼日時 5月18日(日) 8時~9時

▼集積場所 9時までにゴミステーション(あき街は、透明な袋に入れるか、表示して出してください)

※当日は、家庭から出るゴミは出さないでください。

▼問い合わせ リサイクル推進室 (☎2958)

登別市情報公開および個人情報保護に関する審議会委員を公募します

市は、情報公開および個人情報保護に関する施策に対し、広く市民の方の意見を反映させるため、登別市情報公開および個人情報保護に関する審議会委員を公募します。

▼応募資格 市内に居住する満20歳以上の方(公務員を除きます)

国民健康保険からのお知らせ

こんなときは14日以内に届け出を!

◎国保に加入するとき

- ・他の市町村から転入してきたとき
- ・他の健康保険をやめたとき
- ・子どもが生まれたとき

◎国保をやめるとき

- ・他の市町村へ転出するとき
- ・他の健康保険に加入したとき
- ・加入者が死亡したとき

年に一度は 短期人間ドックの受診を!

- ▶対象 国民健康保険に加入している35歳以上の方で、現在入院や通院をしていない方
- ▶健診内容 胸部・胃部X線、血液、尿、心電図、眼、腹部エコーなどの検査
- ▶自己負担額 3千円
- ▶受診場所 室蘭・登別総合健診センター、登別厚生年金病院

国民健康保険税の申告は 忘れずに!

国民健康保険に加入している方は、市道民税および所得税の申告の必要のない方も、国民健康保険税の申告をしなければなりませんので、必ず申告しましょう。

▶申告方法 該当する方には5月上旬に申告書を送付しますので、必要事項を記入のうえ保険年金課に返送してください

申し込み・問い合わせ

保険年金課 (☎1771)

訂正とおわび

広報のほりべつ4月15日号1ページの「市の施設の閉館日・閉館日」で、登別公民館、温泉公民館、郷土資料館、各青少年会館、市民研修センター、市民プールの5月9日(金)の閉館は開館の誤りでした。

訂正し、おわびします。

社会教育課 (☎1100)

文化・スポーツ振興財団

(☎1116)



このまちが 好き

この花を
知っていますか

郷土資料館の敷地内に立ち、5月中旬頃、薄緑色の花びらをつける桜「御衣黄」。

江戸時代には高貴な桜として、庶民の目に触れない所で栽培されていたと言われています。

時は変わり、平成。

世の中は目まぐるしく変わっていきませんが、御衣黄の色は変わることなく、登別を見つめ続けていきます。

▼問い合わせ

郷土資料館
(0143)1339

人のうごき

●人口 56,515(-551)
●世帯 22,653(-129)
()は前月比
平成9年3月末日現在

となりまち

ホットライン

室蘭市

イルカ・鯨ウォッチングを
体験しませんか

噴火湾の大海原でイルカの爽快なパフォーマンスを目の当たりに見ることができ、また、金・銀屏風などの外の景観もたんのうでできます。一度体験しませんか。

▼期間 5月3日(土)・8月24日(日)(毎日運行)
▼時間 14時~17時(6月1日(日)からは10時~13時、14時~17時の2回)

▼乗船場所 粟林商会ビル前(エルム船着き場)

▼定員 午前便12人、午後便24人

▼料金 大人(中学生以上)6千円、子ども(3歳~小学生)3千円

▼申し込み・問い合わせ 電話で(株)エルム

(0143)8622

伊達市

新緑の有珠山で

森林浴ウォーキング

伊達市観光協会は、安全祈願祭をかねた「第7回有珠山さわやかウォークフェス」を開きます。

昭和52年の噴火以来、20年の月日が流れた有珠山。すがすがしい新緑の季節に森林浴をしながらさわやかな汗をかいてみませんか。

▼日時 5月26日(日) 9時30分集合

▼集合場所 旧有珠山登山バス会社跡地(道南バス有珠駅前下車徒歩10分。無料駐車場あります)

▼コース 登山道と遊歩道のコースがあります

※11時30分から山頂で安全祈願祭を行うほか、豚汁のサービスがあります。

▼問い合わせ 伊達市商工観光課

(0143)422222

